

第 89 回 国立大学法人新潟大学経営協議会 議事概要

- 1 日 時 平成 30 年 6 月 20 日（水） 13 時 13 分～14 時 12 分
- 2 場 所 新潟大学駅南キャンパス ときめいと 講義室 A
- 3 出席者 13 名（濱口委員，大浦委員，高橋均委員，牛木委員，川端委員，高比良委員，岩田委員，齋藤委員，神保委員，高橋道映委員，福田委員，三輪委員，森委員）
（ほか田代監事，逸見監事，鈴木副学長がオブザーバー出席）

4 議事概要について

開会に先立ち，議長である高橋学長が欠席であるため，学長の職務を代理する理事の順位第一位である濱口理事が議長を務める旨，説明があった。

続いて，第 87 回（平成 30 年 3 月 15 日），第 88 回（平成 30 年 6 月 5 日～6 月 7 日）の議事概要が確認された。

5 審議事項

（1）平成 29 事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

平成 29 事業年度に係る業務の実績に関する報告書について，資料 1 に基づき審議が行われ，文言等の修正は学長に一任することとし，承認された。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言，■：本学側の発言〕

- ・資料に，「新潟創生人材プログラム」を構築し，11 人の学生を「新潟創生人材」として認定した，とあるが，今後も追加で認定していくのか。
- ・「新潟創生人材プログラム」は，「COC+事業（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）」の一環で全学部の学生を対象に行っているもので，指定の科目群から一定の科目を履修して申告した学生を，審査を経て「新潟創生人材」として認定する制度である。よって，今後も該当する学生を認定していくことになる。
- ・業務の実績に関する報告書を文部科学省に提出するにあたっての審議であり，委員がより理解を深めることができるよう，次年度以降に本件を審議する際には，監事の立場から見た進捗状況や課題等についても説明いただくことを検討願いたい。
- ・次年度に向けて検討したい。
- ・重要な指摘であると考えるので，次年度に向けて検討したい。

- ・義務である文部科学省国立大学法人評価委員会への報告だけでなく、より詳細な「自己点検・評価版」を自主的に作成し、ホームページで公開するという事は素晴らしい取組であると考えている。経営協議会学外委員からの意見を取り入れる仕組みの構築等、経営協議会運営上の工夫や、監事監査意見等に基づく業務改善の取組等、ガバナンスの面でも優れた取組をしている印象を受ける。
 - ・数値による評価を「進捗状況」に付している項目とそうでない項目とがあるが、どのような理由によるものか。また、その評価は誰がどのようにしているのか。
 - ・評価がⅣである項目が2つのみで、ほとんどの項目の評価がⅢとなっている。より多くの項目にⅣやⅡの評点を付す、よりメリハリのある評価をしたほうが良いのではないか。
- ・現状では、国立大学法人評価委員会に数値の報告が求められる項目のみについて、4段階の数値による評価を行っている。内部での様々な議論を経て、特にⅢ以外の評点を付す場合は、根拠を示して十分な説明ができるようにしている。
 - ・Ⅲは「年度計画を十分に実施している」、Ⅳは「年度計画を上回って実施している」という評価であり、目標を相当上回っていると判断することができなければⅣを付すことができない。各国立大学法人による自己評価を経て、最終的には国立大学法人評価委員会が評点を付す。
 - ・Ⅱは「年度計画を十分に実施していない」、Ⅰは「年度計画を実施していない」であるため、そのような自己評価となる項目が生じないように、事業の進捗管理を行っている。

(2) 平成 29 事業年度決算について

平成 29 事業年度決算について、資料 2 に基づき審議が行われ、原案のとおり承認された。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言、■：本学側の発言]

- ・決算の概要からは、収益が増加し、費用が抑えられ、全体的には適切な運営をしているということを見て取ることができる。その中で気になる点は、学生納付金収入が対前年度比で減額になっている点と、病院において収益が増加しているものの経費がそれを上回って増加している点の2点である。病院については、経費が収益を上回って増加することのないよう、しっかりとした運営をお願いしたい。
- ・学生納付金収入に関して、学部についてはこれ以上納付金を増やすことは難しいが、大学院についてはより多くの学生数を受け入れ、納付金を増加させる必要があると考えている。大学院教育により重点を置き、納付金増加の観点からだけでなく、研究の強化の観点からも、留学生を含め優秀な学生を獲得して行きたい。

- ・国立大学法人の経営の観点から、収益等、単なる規模の拡大だけでなく、どれだけのコストをかけてなにを行っているかが重要であり、コストを考えた経営を行っていく必要があると考えている。

○・利益剰余金の執行にはどの程度の自由度が認められているのか。

- ・大学の予算執行は利益が生まれる性質のものではないため、利益剰余金のほとんどは病院によるものである。
- ・資料にある財務諸表は法人全体のものであるが、病院セグメントのみの収支も算出している。病院において生じた利益剰余金については繰り越しをし、翌年度以降の医療機器の更新等に充てるという、目的を持った運営をしている。

(3) 経営協議会から選出する国立大学法人新潟大学学長選考会議委員について

学長選考会議委員の任期満了に伴い、経営協議会から選出する委員について審議が行われ、伊藤聡子委員、齋藤康委員、神保和男委員、高橋道映委員、三輪正明委員が選出された。

※意見・質問なし。

6 報告事項

(1) 平成31年度施設整備費補助金要求事業について

川端理事から、平成31年度施設整備費補助金要求事業について、資料4に基づき報告があった。

※意見・質問なし。

(2) 平成30事業年度長期借入金償還計画の認可について

平成30事業年度長期借入金償還計画の認可について、資料5に基づき書面による報告があった。

※意見・質問なし。

(3) 平成 29 年度卒業（修了）者の進路状況等及び就職支援の取組について

大浦理事から、平成 29 年度卒業（修了）者の進路状況等及び就職支援の取組について、資料 6 に基づき報告があった。

※意見・質問なし。

(4) 平成 30 年度入学者選抜試験実施状況について

大浦理事から、平成 30 年度入学者選抜試験実施状況について、資料 7 に基づき報告があった。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言，■：本学側の発言]

- ・創生学部について、設置初年度の平成 29 年度に比べて、平成 30 年度の入試倍率が大きく下がっている。大学としてはその原因をどのように分析しているのか。
- ・平成 29 年度は設置初年度であったことから関心が高く、倍率も特別に高くなったが、平成 30 年度は設置 2 年目となり、落ち着いたものと考えている。なお、平成 30 年度の創生学部の受験倍率は、新潟大学内では他学部と比して平均的な倍率となっている。
- ・自らの他大学での経験からしても、入試倍率は一般的に隔年で上下する傾向にあるものと理解している。
- ・新潟大学の学生、卒業生をつぶさに見ており、応援している。新潟大学が県内のリーダー的な立場にあることを考えても、地域と連携し、新潟県と一体となって、概算要求に取り組んでほしい。